

1. ある子どもの叫び・・・「あゆみ（通知表）なんかいらん！」

- ・ どうせ1ばかりや、いつも同じなんや、そんなんいらんのや。
- ・ オレは終業式が嫌いや、あゆみ（通知表）なんか見たくないんや。

2. あるお母ちゃんの叫び・・・「個人懇談会は行きたくないんです！」

- ・ 行ってもどうせ同じこと言われるもん、いつも悪いことばかり・・・。
- ・ 「発表しませんね」って言われたって私は何もできないよ、それは先生の仕事でしょ。
- ・ 個人懇談会の晩は、親子けんかが始まります。

3. 何のための懇談会？ 何のための通知表（あゆみ）？

- ・ 懇談会に行けば「うちの子もなかなかもんやね」って元気が出る。
- ・ 通知表（あゆみ）を見て、「今度もがんばろうかな」って希望がもてる。
- ・ 「こんな子どもに育てたいな」って先生と親で語り合いましょう。

4. 通知表（あゆみ）をつけるのは、つらいなあ。

- ・ あの子は、自分の評定や評価を見てどう思うだろう？
- ・ みんなを◎にしてやりたい・・・でもそれもできない
- ・ あの子ががんばったのに、全体から考えると評定は上げることができない。つらいなあ。

5. 通知表（あゆみ）の改訂作業 （1993年平木小学校「あゆみ」検討委員会）

- ・ 子どもに、親に、希望と勇気を持たす通知表にしたい、そのためには・・・
- ・ 今から40年前（1967年）の「通信簿の改造～東井義雄・八鹿小学校」（明治図書発行・200頁・価格650円）を参考にしたが、今でも十分通用する東井理論と実践。

6. 所見のない通知表（あゆみ）なんてつくらないでほしい

- ・ 評定と所見、どちらに時間がかかるの？ 所見は時間がかかるけどしっかり書きたい。
- ・ 子どもは、所見を一生懸命に読んでいる。
- ・ 所見は、子どもへの贈る言葉。心に響く所見の言葉は、一生覚えているもの。

7. 個人懇談会でも所見でも・・・具体的なことがポイント。

- ・ 抽象的な表現は心に残らない。具体的なことを話す、具体的なことを書く。
- ・ だから、日常の具体的な出来事を記録しているか、していないかで決まる
- ・ 記録をとる先生に、メモをとる先生に！ すると先生も懇談会がおもしろくなる、所見を書きたくなる。

8. 具体的なことをどう書くか？ どうしゃべるか？ その後に先生の願いや想いを・・・

- ☆「明るくて元気でした」→→→「いつも運動場に一番に出て遊んでいました」→「その影響でクラスの仲間も全員外に出るようになり、みんなで仲よく遊べるようになりました。このクラスが明るくて元気なのは彼のおかげです。ありがとう松本君。」
- ☆「いつも優しい行動でした」→「落ち込んでいる友だちがいれば、いつもそばに行き、励ましていました」→「そんな彼女の行動はクラスの仲間からも信頼されています。」
- ☆「学習もよく頑張っていました」→「自主学習では算数の分数の足し算を何度も何度も練習していました」→「その努力は来学期は成果として必ず出てくるはずです。ガンバレ木村さん。」
- ☆「運動会で係の仕事をしっかりやっていました」→「運動会では、会場係として全体を見渡し、みんなが気持ちよくできるように常に声掛けをして活動していました。また後かたづけでは、1年生の子の机をもってやるなど、優しく低学年の子にも関わっていた福田君でした。」

9. 悪いことは書くのか？ 書かないのか？

- ・所見には書かない方がいい。文字で残るということは、あまり気持ちのいいものではない。
- ・所見には、いいことと悪いことを両方書くという考えもあるが、やはり悪いことは気持ちはよくない。悪いことは懇談会で顔を合わせた上で、言葉で言うといい。
- ・懇談では、いいことをたくさん言えば、悪いことも素直に聞き入れてもらえる。
- ・ただ、しっかり親に聞いてほしいことは、懇談会でしっかり言うことも大切。「九九の練習を必ず聞いてやってください。私も学校でがんばるので、お母さんも家で頑張ってくださいね。一緒にあの子のためにがんばりましょう。」とか・・・。

10. 所見を書いたあとは、必ず学年の先生や先輩や同僚にも読んでもらう、読ませてもらう。

- ・先輩に読んでもらう、先輩のを読ませてもらう、これが大切。
- ・言葉の使い方、字の間違い等、しっかり勉強する。

11. その他いろいろ・・・

- ・字の間違いは、御法度！ 辞書をそばに置いてきっちりと。
- ・たとえ字が汚くても、パソコン文字よりは心がこもって見える。大事なのはていねいに書くことである。パソコン文字はきれいで便利だけどダメ。
- ・所見の枠にいっぱい書くこと。余らすのは絶対によくない。私の子は書くことないのか、なんて思わずから余らすのはダメ！ むしろ枠からはみ出すぐらい書くことはgood。
- ・所見欄に「懇談でお話したとおりです」のハンコが押してあった学校があった。最低！
- ・大きくなってから、所見を読んで、「オレもなかなかやったんや、またがんばろう」って希望をもってくれたら最高の所見である。